

## 1. 略歴

- 1982年3月 東京大学文学部第三類フランス語フランス文学専修課程卒業  
1984年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学（仏語仏文学）  
1987年4月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程進学  
1988年10月 パリ第12大学博士課程（～1991年9月）（フランス文学、フランス政府給費留学生）  
1992年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程退学  
1992年4月 東京大学文学部助手  
1994年4月 白百合女子大学文学部専任講師（フランス文学）  
1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（フランス語フランス文学）  
2010年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（フランス語フランス文学）

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

フランス近代文学。

### b 研究課題

- (1) ポール・ヴァレリー研究。「夢」というトポス、断章という形式からの検討。
- (2) クレオール文学研究。エキゾティシズムとは無縁の、活力にあふれたその作品美学の研究を、セゼール、グリッサン、シャモワゾー、コンフィアンなどの作品読解を通して進めている。
- (3) 20世紀フランス文学における散文の研究。小説全盛の19世紀とは異なり、20世紀には、詩的強度を備えたさまざまな散文作品が書かれるようになった。とりわけ、時間意識、夢と覚醒というテーマ、イメージの活用法、さらに人文科学との接点という視点から、その特質の一端を捉えようと試みている。

### c 概要と自己評価

(1)については、長年の課題として研究を続けている。昨年、ヴァレリー後期の代表作『ドガ ダンス デッサン』の翻訳を出版、またヴァレリーとメルロ＝ポンティの比較研究を二本発表した。メルロ＝ポンティが1953年コレージュ・ド・フランスで行ったヴァレリーに関する講義（『言語の文学的使用法の研究』）には、なお多様な読解の可能性が秘められている。この講義録の読解を通して、詩人と哲学者への理解を深めていきたいと考えている。

(2)については、グリッサンの小説『マホガニー』の翻訳を出版した。また、項目執筆等を通して、クレオール文学の意義を俯瞰的な立場から考えた。

(3)については、20世紀文学と人文科学の境界を探る一連の研究會（人文知研究會）を終え、共催者である早稲田大学・鈴木雅雄教授とともに、現在書籍版の準備を進めている。これ以外に、文学作品に写真を取りこんだ〈写真小説〉に関する研究を行っている。この分野に関する全体的な考察、また谷崎潤一郎『吉野葛』に関する個別研究を発表した。

### d 主要業績

#### (1) 論文

Masanori Tsukamoto, 「Le support de la lumière : une théorie virtuelle du cinéma chez Valéry」、『仏語仏文学研究 (Revue de Langue et Littérature françaises)』、54、p.11-21、2020

Masanori Tsukamoto, 「Qu'est-ce que « l'usage littéraire du langage » ? La parole à l'état naissant chez Valéry et chez Merleau-Ponty」、『仏語仏文学研究 (Revue de Langue et Littérature françaises)』、54、225-242、2020

塚本昌則、「クレオール文学を翻訳する」、『クレオールの想像力——ネグリチュードから群島の思考へ』（立花英裕編）、p.171-188、2020.4

Masanori Tsukamoto, 「Breton au Japon, une passivité créatrice」、『La pensée-Breton. Art, magie, écriture chez André Breton, L'Œil d'Or』、p.313-328、2021.5

塚本昌則、「メランコリーの織物——〈写真小説〉論にむけて——」、『思想』、n° 1165、p.24-48、2021.5

Masanori Tsukamoto, 「L'usage de la photographie documentaire - Autour de Yoshino kuzu de Jun'ichirō Tanizaki et d'« Ambros Adelwarth » de Sebald」、『Revue internationale de la photolittérature』、n° 4、2022

[http://phlit.org/press/?post\\_type=articlerevue&p=3408](http://phlit.org/press/?post_type=articlerevue&p=3408)

Masanori Tsukamoto, 「Mishima et la poétique de l'inhumain」、『Revue des Sciences Humaines』、N° 345、Janvier-mars 2022、p.31-41

Masanori Tsukamoto, 「Poétique de l'inhumain : De « La Désumanisation de l'art » d'Ortega y Gasset à « L'Institution » de Merleau-Ponty」, 『Zinbun, Annals of the Institute for Research in the Humanities, Kyoto University』, n. 52, p.44-52, 2022.3

(2) 書評

2021年回顧・外国文学（フランス）、『2021年回顧・外国文学（フランス）』、『週刊読書人』、2021.12.17

恒川邦夫、『サン＝ジョン・ペルスと中国——〈アジアからの手紙〉と『遠征』』、法政大学出版局、『ヴァレリー研究』、n° 10, p.62-69, 2022.3

(3) 解説

塚本昌則、「ポール・ヴァレリー「テスト氏との一夜」／「エメ・セゼール『帰郷ノート』」／「旧植民地のフランス語圏文学」、『フランス文学の楽しみ方——ウェルギリウスからル・クレジオまで』（永井敦子・畠山達・黒岩卓編）、p.82-83; p.106-107; p.160-163, 2021.4

塚本昌則、「「失われた時」とは何か」、『図書』、p.30-34, 2022.3

(4) 予稿・会議録

国内会議、塚本昌則、「非人間の詩学——オルテガ・イ・ガセット「芸術の非人間化」からメルロ＝ポンティ「制度化」まで」、「〈ポスト＝ヒューマン〉の人文学」、京都大学人文科学研究所／アンスティチュ・フランセ関西＝京都、オンライン開催、2020.11.14

(5) 翻訳

個人訳、Édouard Glissant, "Mahagony", 塚本昌則、『マホガニー——私の最期の時』、水声社、2021.6

個人訳、Paul Valéry, "Degas Danse Dessin", 塚本昌則、『ドガ ダンス デッサン』、岩波書店、2021.11

### 3. 主な社会活動

(1) 学会

日本フランス語フランス文学会会員

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

日仏会館フランス語コンクール審査員